

児童生徒のキャリア発達を支える ARA・SHIの教育プログラムの構築（3）

—子ども一人一人の自立を目指して—

林健太郎

(熊本県立荒尾支援学校)

KEY WORDS: 育てたい力 学習評価 校内研修システム

I 問題と目的

本校がキャリア教育を推進した平成 23 年度以降、6 年間に渡り、学校教育目標の実現に迫る基盤構築に向けて、「育てたい力」を基盤とした授業づくり及び学習評価の具現化を図ってきた。今までの歴史と伝統を基盤に過去から現在、そして明日へとつなぐ教育に取り組んできた。平成 25 年度までに、学校の教育システムとそれを支える校内研修システムの見直しと PATH ミーティングの手法で本校の未来を語った『ARA・SHI's PATH』を作成した。そこから児童生徒に応じたカリキュラム研究の課題を抽出した。

本研究では、教育活動全体を計画的に系統性・発展性・一貫性ある指導内容や指導方法の具現化とより実践的な取組の充実を図るために、一人一人の児童生徒に応じた教育プログラムの構築を目的とする。

II 方法

1 研究の方針

児童生徒の個性全体を多視点から実態把握し、「育てたい力」一覧表の効果的な活用とそれを授業づくりに活かすツールの作成と運用によって教育内容を行う仕組みを構築する。その仕組みを「ARA・SHI の教育プログラム」とし、児童生徒に最適な教育を行うための指導内容及び指導方法で、「いつ」「何を」「どのように」をキーワードとし、個々の児童生徒の教育的ニーズに応じる具体的な教育活動を設定するものとする。下図 (Fig. 1) のように、①～④の視点で研究の方針を定めた。

ための必要な支援が結び付いた学習指導案を運用する。

(3) 「育てたい力」一覧表の検証と適切な指導及び必要な支援の充実に向けて

学習上又は生活上の困難を改善・克服するための適切な指導及び必要な支援の充実、体系的な学習評価（学習状況の評価、授業の評価、指導の評価）の推進を図る。

(4) 個々の児童生徒に確かに「育てたい力」が身に付く評価方法の工夫に向けて

上記(3)と関連づけて、各学習グループにおける研究会や一人一事例研究で蓄積してきた評価方法を整理する。

3 各取組に対する評価方法

(1) 全教職員に対するアンケート調査

- ・キャリア教育の評価

- ・ARA・SHI's PATH の評価

(2) 各学習グループにおける取組の集約

- ・「育てたい力」一覧表を用いた事例研究及び学習評価

(3) 外部評価

- ・事例検討会における外部講師招聘

- ・公開研究発表会開催 (H29. 1. 21)

III 結果

1 キャリア教育の評価

アンケート結果から、「自分らしい生き方を実現することを日頃の取組の中に具体的指導場面を設定して周囲の人と力を合わせて行動すること」、「苦手なことへも自分の成長のために進んで取り組むこと」、「学ぶことを働くことにつなげて考えること」に対して高い達成度があった。

2 ARA・SHI's PATH の評価

3 年前に語り合った本校の将来像は、以後 3 年間の研究活動の方向性を示しただけでなく、教育課程の編成に向けた取組、キャリア教育の進化・深化、期待感の高い学校づくり、授業の充実、教師の専門性の向上につながった。

3 一人一事例研究

5 年間の事例研究の取組により、250 事例を超える実践を蓄積した。今年度は、平成 24 年度に設定した「育てたい力」の検証及び 6 年間のキャリア教育推進のシステム構築、3 年間の研究活動における成果と課題を整理した。

IV 考察

「育てたい力」一覧表のような発達の段階を踏まえた授業づくりを柱に据えたことで、学校が組織的に教育活動に取り組み、個々の教師の実践力の向上や各教科での学習や体験活動等で育てたい力を育む教育活動の文脈化につながり、教育課程の改善の根拠となっていると考える。

3 年間の区切りとし、2 期に渡るキャリア教育実践を積み上げたことは、児童生徒のみならず教師のキャリア発達を促すことができた。また、これまで積み上げてきた教育内容を言語化し、全体像を可視化することでより効果的な授業づくりを進めることができたと考えられる。

参考・引用文献

熊本県立荒尾支援学校研究紀要第 23 集(2017)

(KENTARO Hayashi)

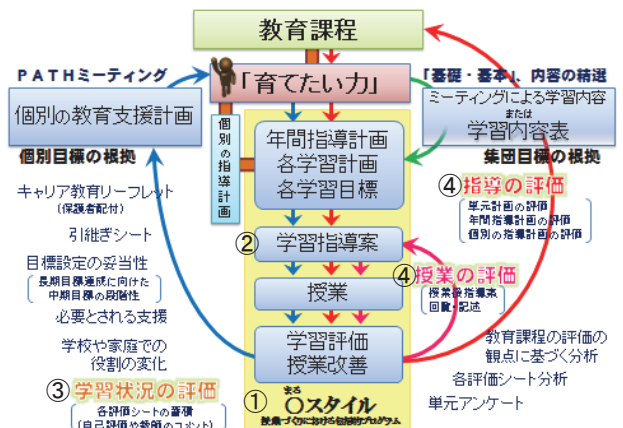


Fig. 1 ARA・SHI の教育プログラムの概要図

2 研究の内容

(1) 学習内容を精選し、「O(まる)スタイル」を運用に向けて年間指導計画および各学習計画を作成し、授業改善PDCA が適切に機能しているかを、学習グループごとの包括的な授業づくりツール「Oスタイル」を策定・運用し、実践をとおして成果と課題を明らかにする。

(2) 学習指導案の運用プロセスの明確化に向けて

生活や社会、将来の観点から必要とされる知識、技能や態度を想定した上で、児童生徒に身に付けさせたい「育てたい力」を設定し、その目標設定と学習活動、目標達成の